



「緑の防潮堤」の取り組み



10月1日(火)に第4回仙台湾南部海岸「緑の防潮堤」植生管理検討委員会が開催されました。本委員会は東日本大震災を契機に、津波や高潮による被害軽減を目的にした「粘り強い構造」の海岸堤防のより一層の効果発現のため、有識者から植生維持管理に必要な高度な専門知識に基づく指導・助言を受けることを目的に設置されました。

緑の防潮堤は、整備事例が少なく知見やデータの集積が無いため、現在、岩沼海岸二の倉地区と蒲崎地区、山元海岸中浜地区で、植栽する樹種などの条件を変えた試験植栽を行いデータの集積を行っています。

今回は二の倉地区と蒲崎地区の現地視察後に委員会が開催され、「緑の防潮堤」維持管理マニュアル(案)について意見を頂きました。



▲二の倉地区を視察する検討委員



▲検討委員会開催の様子

「緑の防潮堤」イメージ

コンクリートで被覆された堤防の法面に盛土をおこない植栽する、いわゆる『緑の防潮堤』は、樹林と盛土が一体となって堤防の洗掘や被覆工の流出を抑制する粘り強い構造の堤防です。

